



ぞうさん広場 Vol. 34

特集

救命救急医療・災害医療



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI SAKAI CITY MEDICAL CENTER



特集

命に関わる重症患者を受け入れる

救命救急医療



森田 正則 もりた まさのり

救命救急センター センター長
救命救急科 部長

認定資格

医学博士、救急科専門医、日本救急医学会認定指導医、日本DMAT隊員、クリニカルトキシコロジスト、インфекションコントロールドクター、日本救急医学会認定ICLSインストラクター、ACLS大阪認定インストラクター、JATECインストラクター

三次救急に対応する 救命救急センターの使命

救急医療は一次、二次、三次の3段階に分けられていて、三次救急と呼ばれる救急対応が最も高度です。当院の救急組織としては救命救急センターと救急総合診療センターがありますが、今回は、最も重症度の高い三次救急の患者さんを受け入れる救命救急センターについて説明します。

救命救急センターは全国に約300か所あります。人口を

1億2000万人として、単純計算では人口40万人に1か所程度で、大阪府には16か所あります。しかし、人口80万人の堺市に救命救急センターは当院しかなく、人口割りにすると非常に広い範囲をカバーしていることとなります。救命救急センターの使命は命に関わる病気を扱う医療を行うことです。重度の外傷(けが)で命が危険な状態にある患者さん、心筋梗塞、脳卒中など内因性の病気で、今にも心臓が止まりそうな状態、あるいはすでに心臓が止まっている重症患者さんを対象としています。

地域的には、大和川以南で三次救急に対応するのは、当院のほか岸和田徳洲会病院、りんくう総合医療センター、近畿大学病院の4つです。堺市は80万人、堺より南の泉州は100万人、南河内地域は60万人くらいとして、約240万人を4つの救命救急センターが対応しているわけです。

救命救急センターの特色と強み

救命救急センターは24時間交代制で受け入れていて、連絡が入り次第、患者さんの状態に応じて即座に必要な医療体制を組みます。当院では年間に約1万件の救急搬送を受け入れています。そのうち三次救急の患者さんは約800人です。

外傷(けが)の患者さんは特に多くの科の医師で診療することになります。例えば、頭のけがが重症の場合は脳神経外科、お腹など体のけがは一般的な外科、骨折であれば整形外科、血管内治療については、血管の中にカテーテル

を入れて治療するIVRの専門医が対応します。

当院の救命救急センターには、外科、整形外科、IVRの専門診療を行える医師などが配属されていて、1つの組織で幅広く治療できる体制が整っています。

さらに、脳卒中は脳神経外科・内科、心筋梗塞や大動脈解離は循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、集中治療科など病院全体の医師と連携してすぐに対応します。

このように患者さんの状況次第で臨機応変に体制を組めるのが当院の強みです。また、重篤な状態の患者さんを迅速に診療するため、救急外来で搬送されてきたらすぐに対応できる救急専用のCT室や血管造影手術室を備えていることも強みの1つです。

救急車で搬送する時間のゆとりもない状態の場合はドクターカーで対応することがあります。これは、救急隊では処置できない可能性がある症状と判断されれば、当院の医師と看護師が現地に急行して処置をする取り組みです。テレビドラマなどでよく見かけるドクターヘリは当院の



管轄ではなく、大阪ドクターヘリは大阪大学医学部付属病院を基地病院として運航しており、現場が大阪南部の場合は当院に搬送されてくるケースがあります。

近隣の救急病院と協力して対応

三次救急に関してはできるだけ受け入れる体制を取っているものの、受け入れ依頼が重なりやむを得ず受け入れることができないケースがあります。それを少なくするために三次救急以外の救急に関しては、堺市内20以上の救急病院が協力し合って対応しています。

データの的には、堺市消防局が搬送する三次救急患者さんの

うち当院に運ばれてくるのは約70%です。その他の患者さんは、他市と隣接地域で、例えば堺市南区や大阪狭山市では当院より近い近畿大学病院に搬送され、堺区の北部は大阪急性期・総合医療センターに搬送されるケースがあります。もちろん、その逆に大阪市内や近畿大学のある南河内から当院に搬送されることもあり、お互いにカバーし合っています。

三次救急の受け入れは当院が担っていますが、脳卒中や心筋梗塞などは当院を含め、いくつかの専門の病院が対応するなど、どういう設備が整っているのか、専門家が何人いるのか、それぞれの病院が役割に応じて分担・協力しないと対応しきれないのが救急の実情です。

AEDを活用しましょう

重症と思われる人がそばにいるときは、近くにAEDがあれば救急車が来るまでにできるだけ早く使っていただくことをおすすめします。心停止の人にAEDを使って助かった人が当院に運ばれ、治療のあと社会復帰することができた人がいます。

堺市消防局は「まちかどAED」事業を推進しており、約2400台以上のAEDが登録されていますので、携帯アプリのAEDマップで探して、一刻も早くAEDで処置をしながら救急車を呼んでいただくと救える命があります。

救急車を呼ぶかどうか迷う場合は、#7119の救急安心センターに相談してください。



2025年1月18日(土)

災害訓練を実施しました

当院では、地震や台風などの自然災害により、多数の傷病者が発生した場合においても、適切な医療を提供できるように、災害訓練を定期的を実施しています。今回は堺市域で震度6以上の地震が発生したことを想定し、災害対策本部の実動訓練および多数傷病者受入れの机上訓練を実施しました。

今後も定期的に災害訓練を実施し、堺市唯一の災害拠点病院として、災害時の医療救護活動において中心的な役割を果たせるよう努めてまいります。



被災時の受け入れと被災地への緊急派遣

災害医療



地域災害拠点病院として

災害時の医療を確保することを目的として、当院は、1996年から24時間対応可能な緊急体制をもつ地域災害拠点病院の指定を受けています。

地域災害拠点病院としての当院の役割は、堺市域が被災したときに中心拠点として被災者の受け入れを行うことと、他地域が被災した時に災害派遣医療チームDMATを派遣して現地で対応することの2つです。

DMATとは

「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チームDisaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略して「DMAT(ディーマツト)」と呼ばれています。

被災地に緊急派遣するDMATの使命

DMATとは、地震や津波、集中豪雨などの自然災害、テロ、航空機事故や列車事故などの集団災害、あるいは新型コロナウイルス感染拡大のようなパンデミックが発生した直後の急性期に現地に急行し、急性期の医療(おおむね48時間以内)活動を行う災



害医療派遣チームのことで

す。DMATは阪神・淡路大震災(1995年)の経験がきっかけとなって始まった制度です。厚生労働省または都道府県に指定された医療機関に勤務してDMATに登録している医師、看護師、業務調整員は、被災状況に応じて緊急に必要なメンバーを構成して出動できるよう専門的な研修や訓練を受けています。阪神・淡路大震災では被災者が次々に運ばれてきて、現地の病院だけでは対応しきれず、けがで亡くなる人が大勢いました。もっと早く介入していれば助かっていたかもしれない災害死が数百人程度いたことがのちに分かり、その経験を踏まえて、災害発生後、速やかに医療支援チームを派遣し、被災者を病院外で治療することを目的として発足したのがDMATです。



東日本大震災(2011年):自衛隊機にて伊丹空港からいわて花巻空港に到着したDMAT

当院の主なDMAT派遣実績

- ・東日本大震災(2011年)
- ・熊本地震(2016年)
- ・大阪北部地震(2018年)
- ・新型コロナウイルス感染拡大時:(2020年)ダイヤモンドプリンセス号
- ・能登半島地震(2024年)



DMAT隊の訓練と派遣実績

自然災害だけでなく、どんな災害が、どんな規模で、いつ発生するか、まったく想定できないため、DMAT隊員の訓練は継続的に行われています。

毎年実施されている近畿地方DMATブロック訓練のほか、政府が行う訓練や個人の技能を維持するための技能維持訓練があり、院内では毎年行っている消防防災訓練と月1回の定例会議。このほか、関西国際空港での航空機事故消火救難総合訓練、堺地域災害時医療救護対策協議会と堺市との情報伝達訓練など、さまざまな訓練に参加して、いざというときに備えています。

変わってきた支援活動の内容

DMATの使命は、当初はけが人の治療でしたが、2011年に発生した東日本大震災では津波で亡くなる人が多く、阪神・淡路大震災のときはまったく様変わりし

ていました。病院が被災して停電したり、原発事故の問題で病院が避難したりせざるを得ない事態になり、入院患者さんを他地域に移送しなければならなかったのが東日本大震災特有のニーズでした。

2016年の熊本地震では、被災した病院から患者さんを避難させなければいけないという切羽詰まった状況がありました。

そして、2024年1月に能登半島地震が発生しました。当時は2か所の病院・施設が被災し、患者さんの避難が行われましたが、その後も水が届かないため医療や生活が困難になりました。医療が必要な人が1000名程度、介護が必要な人が1000名程度いて、これらの人々を能登から脱出させることが喫緊の課題となりました。まず金沢市に避難しましたが、金沢市での受け入れがオーバーフローしたために、さらに福井、富山、岐阜、愛知などに分かれて移動しました。

災害時は病院も被災することがあります。入院している人は、逆に言えば入院していないと生命を維持できない

DMAT隊の活動例



東日本大震災(2011年) 情報収集と記録をするようす



大阪北部地震(2018年) 全体打ち合わせのようす



大阪北部地震(2018年) ドクターカーへ患者を搬入するようす

方です。病院が被災したときに患者さんの生命を維持するにはどうすればよいかという課題が浮き彫りになりました。これらの経験を踏まえて、最近では、被災した病院や施設をどういう形でサポートしていくかが災害医療の主流になってきました。

災害時は想定外のことが起きます。医師は医師の仕事をする、看護師は看護師の仕事をするということにとどまらず、被災者のために何ができるか、現場で必要とされる課題に取り組むことが求められています。

活動期間も長期化しています。病院の支援や他の支援となると短期間では対応しきれず、能登半島地震のときは、当院が派遣したDMATは数か月単位での支援活動となりました。

全ては被災者のために

当院は地域災害拠点病院であるため、堺市が被災すれば地域住民の患者さんを受け入れます。同時に、各地



東日本大震災(2011年):広域搬送拠点救護所で傷病者の治療を行うDMAT



熊本地震(2016年):熊本市の病院にて傷病者の治療を行うDMAT

から派遣されてくるDMAT隊を受け入れるとともに、困っている病院を支援する活動を調整することになります。

当院に全ての患者さんが来るわけではありませんが、近隣の急性期病院(災害協力病院)と調整して対応します。

それぞれの病院で必要な診療をしたうえで、さらに重症の患者さんが当院に搬送されてくることになるため、当院で対応しきれない場合は、近隣の災害拠点病院に協力を依頼します。大阪府全域が被災した場合は、和歌山、奈良、兵庫など隣接県の病院と対応を調整します。そのため、広域搬送の災害訓練も行っています。災害拠点病院は1分1秒を争う限られた時間の中で、目の前の命を救うため、瞬時に判断し臨機応変に対応しています。全ては被災者のために…。



2022年度近畿地方DMATブロック訓練
問診のようす



能登半島地震(2024年)
施設入所者搬送のようす



2024年度近畿地方DMATブロック訓練
活動拠点本部内のようす

市民健康講座 開催報告

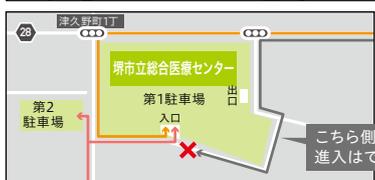
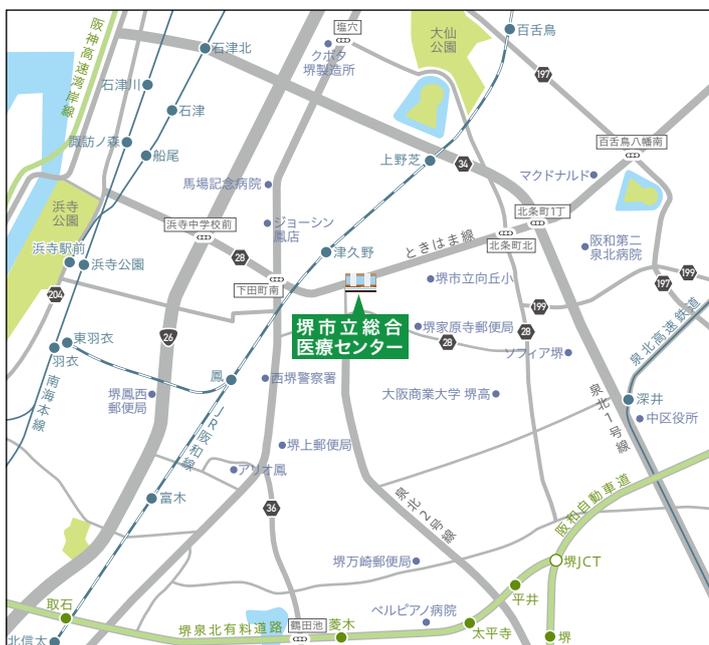


2024年11月11日(火)に市民健康講座を開催しました

医師、看護師、歯科衛生士、管理栄養士が「加齢に伴う摂食嚥下 誤嚥性肺炎予防」をテーマに講義を行いました。嚥下障害予防体操や、唾液嚥下テストと舌圧測定などの簡易検査も体験いただき、参加者からは「とても良い勉強になった」「歯磨きの正しい方法を改めて学ぶことができた」「次回も参加したい」との感想をいただきました。想定以上の来場者がお越しくださり、満員での開催となりました。ご参加いただきありがとうございました。



Access 交通のご案内



※当院駐車場へのご利用は一方からの進入となっております。
※午前中は大変混雑しますので、第2駐車場もご利用ください。

こちら側からは駐車場への進入はできません

堺区・南区方面に送迎バスを運行中!

堺区ルート 19本/日 南区ルート 8本/日 **無料** ※平日のみ

スマホから送迎バスの位置情報がわかるようになりました

※位置情報管理システムは、一定期間の試験運用を行い、継続運用すべきかを検討いたします

詳しくは、ホームページをご確認ください



バスでお越しの方

中もず駅前、石津川駅前、深井駅、泉ヶ丘駅、若竹大橋、榎・美木多駅、堺東駅前
上記の南海バス停留所から、堺市立総合医療センター行きのバスをご利用ください

電車でお越しの方

JR阪和線津久野駅 徒歩約5分

車でお越しの方

阪和自動車道「堺IC」より10分
阪神高速道路15号堺線「堺出口」高架道を出口まで進み
国道26号線より15分

駐車場料金のご案内

一般ご利用者(お見舞い等)	当日受診された方	手術付き添いの患者さんのご家族等
最初の1時間 200円	5時間まで 200円	24時間まで 200円
最初の30分以内に駐車の場合は無料。以降30分毎に100円		当日受診された障害者手帳をお持ちの方 無料



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI CITY MEDICAL CENTER

〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁1番1号

TEL.072-272-1199

<https://www.sakai-city-hospital.jp/>